

取組を展開するにあたっての視点

今後5年間の取組を展開する際の重点事項・視点を以下のとおり定め、総合的に推進していきます。

生涯を通じた心身の健康を支えるための食育

健康寿命の延伸を目指し、妊産婦・乳幼児から高齢者に至るまで、ライフステージやライフスタイル、多様な暮らしに対応した、切れ目のない生涯を通じた食育に取り組みます。

持続可能な食を支えるための食育

持続可能な食環境は、健全な食生活を送るための基盤です。食品ロス削減や地産地消など、食環境の持続につながる食育に取り組んでいきます。

「新しい生活様式」やデジタル化に対応した食育の推進

より多くの市民が主体的に実践できるよう、ICT等のデジタル技術を活用した食育に取り組みます。また、「新しい生活様式」を、食生活の見直しの機会とし、食に関する意識を高めていきます。

取組の方向性と具体的な取組

I 健康なからだと豊かなところをつくる食育の推進

1 生涯を通じた健全な食生活の実践を支援します	家庭における取組	家庭における食育の重要性について、子ども・保護者を通じて啓発することで、規則正しい生活リズムの確立や朝食摂取、家族との共食など健全な食生活の実践につながるよう取り組みます。
		◆プレパパママ食育講座 ◆離乳食講座、食育セミナー ◆乳幼児健康診査等での栄養相談・指導
	健康寿命の延伸につながる取組	健康寿命延伸のため、適正体重の維持や減塩、野菜摂取促進など、健全な食生活の実践に向けた啓発、食環境づくりを行います。特に、食に関わる課題が多い「若い世代」とフレイルのリスクを抱えた「後期高齢者世代」を対象にした食育推進に取り組みます。
		◆産学官連携による若い世代への朝食欠食改善の取組 ◆フレイル予防の個別支援、講座 ◆市ホームページを通じた情報発信
	歯科口腔保健の取組	健全な口腔機能の獲得・維持のため、ライフステージに応じたむし歯・歯周病予防対策の充実を図ります。特に高齢者では、オーラルフレイルを早期に発見し改善することにより、全身のフレイル予防ひいては健康寿命の延伸につなげます。
		◆乳幼児健康診査等での歯科保健指導 ◆保育所、幼稚園等でのフッ化物洗口 ◆妊婦歯科健診・歯周病検診の実施 ◆オーラルフレイル対策
	職場における取組	食や栄養に関する情報を、市内企業・事業所や従業員食堂と連携した取組を通じ、効果的に発信することで、食育の推進に取り組みます。
		◆給食施設指導（施設巡回、研修会等） ◆健康創造都市 KOBE 推進会議 健康経営部会

	<p>地域における食を通じた取組</p>	<p>高齢者の一人暮らしやひとり親家庭等、家庭環境や生活の多様化により家族との共食が難しい市民に対し、地域における共食の場づくりを推進し、一緒に楽しく食べる、作ることに加え、食事マナーや家庭の味の伝承の機会ともなるよう取組を支援していきます。小学生～高校生対象の生活困窮者学習支援事業においては、調理実習等を通じて、健全な食生活の実践に向けて取り組みます。</p> <hr/> <p>◆地域の子どもを対象としたおやつづくり、料理講習会 ◆食育ミニ講座 ◆高齢者のふれあい給食会 ◆こどもの居場所づくりでの食事提供</p>
<p>2 保育所、幼稚園、学校等で食を通じた健全育成に取り組みます</p>	<p>食事の提供を通じた食育</p>	<p>保育所、幼稚園等では、日々の食事の提供を中心に、家庭との連携のもと子どもの嗜好や食物アレルギー等個人差に配慮し、一人一人の発育・発達段階に応じた食育を進めます。小・中学校では、栄養バランスがとれた給食提供とともに給食だより、学校給食試食会等を通して保護者へ情報発信し家庭での食育の啓発に取り組みます。小学校では、その日の献立にちなんだ情報を給食時間に児童が放送する、中学校では、アイデアメニュー募集を行い、入賞メニューを献立提供するなどして、食育の取組を進めます。</p> <hr/> <p>◆「保育所における食事の提供ガイドラインに基づくチェックリスト」の活用 ◆地元や各地の郷土料理・行事献立・外国料理・カミカミ献立（よくかんで食べることを実践するための献立）など、特色ある献立の開発・提供 ◆保護者へのおたよりや、給食参観、試食会、食事の展示</p>
	<p>食に関する指導体制の充実</p>	<p>保育所、幼稚園等における指導計画は、食育の視点を含めて作成し、施設長以下関係職員の協力・連携のもと食育を展開していきます。</p> <p>小学校では、学校長・学級担任・栄養教諭等で構成する「食育推進委員会」を継続的に開催し、「食に関する指導の全体計画」を作成し、それをもとに学校での食育を進めるとともに、家庭・地域との連携による発達段階に応じた食育を推進します。栄養教諭未配置校へも、栄養教諭を派遣するなどし、全小学校での食育の充実を図ります。</p> <p>中学校、高等学校では、技術・家庭科における食に関する指導を中核に、自分の食生活に関して問題意識をもち、解決するための目的行動へ結びつけるように指導します。</p> <hr/> <p>◆「食育推進委員会」を設置し、「食に関する指導の全体計画」をもとに食育を推進 ◆栄養教諭による食に関する指導 ◆食育に関わる職員等の資質向上を図るための研修体制の充実</p>
	<p>食の体験学習における取組の充実</p>	<p>保育所、幼稚園等では、野菜の栽培などを通じて、また、小学校では、農業生産者やJA等との連携・協力や神戸市立神出自然教育園での取組を通じ食の体験学習の充実を図ります。また、家庭での食経験の機会が少ない、児童養護施設の子ども達に対しては、退所後の自立を支援するため、ソーシャル・スキル・トレーニングとして調理実習を実施し、食育活動に取り組みます。</p> <hr/> <p>◆農産物を育てる体験学習 ◆児童養護施設退所予定者対象の食事作り体験</p>

	<p>地域との連携による取組</p>	<p>地域子育て支援センターや保育所、幼稚園等では、離乳食講座や食事の提供を含めた体験保育などを通じて、家庭や地域の養育力の向上につながるよう取組を進めます。</p> <p>小学校では、地域で食の生産に携わる方などをゲストティーチャーとして招き、児童へ体験に基づく話や技術を伝えます。</p> <p>◆地域子育て支援センターでの食育体験 ◆地域住民や地域で食の生産に携わる方による食育支援</p>
<p>3 食べものを大切に する気持ちを育みます</p>	<p>食品ロス削減のための取組</p>	<p>市民一人ひとりが、自分の食事の適量を知り、残さず食べる習慣を身に付けることや、作り過ぎや必要以上に購入しないなど、食べ物を無駄にしない意識を高め、「もったいない」気持ちを育む取組を推進します。</p> <p>◆KOBE ストップ the 食品ロス運動（フードドライブ、食品ロスダイアリー）</p>
	<p>エシカル消費の普及啓発のための取組</p>	<p>地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・環境に配慮した消費行動である「エシカル消費（倫理的消費）」の理解促進を図り、「環境に配慮した商品を選ぶ」「必要なものを必要な分だけ買う」「地産地消・旬のものを選ぶ」などのエシカル消費の普及啓発に取り組みます。</p> <p>◆エシカル消費をテーマにした出前講座や消費生活講座の実施、ホームページ等での発信 ◆環境問題や食育などの関係部局や教育委員会と連携した普及啓発の取組</p>
	<p>食べ物や生産者への感謝の気持ちを養う取組</p>	<p>家庭や地域、保育所、幼稚園、学校等において「いただきます」・「ごちそうさま」のあいさつや食事マナーを学び、食事に至るまでに生産者をはじめとして多くの人々の苦労や努力に支えられていることを実感できる様々な体験の機会を提供し、情報発信に努めます。</p> <p>◆保育所、幼稚園、学校等での食事提供を通じた取組</p>

IV 食育推進運動と連携・協力体制の強化

<p>全市一体となった食育推進運動を展開します</p>	<p>関係機関・団体、行政の連携・協働による食育推進運動を、主に「食育月間」である6月や「食育の日」である19日に実施し、また、食育ロゴマークやキャッチフレーズなどを活用することで、市民の食育への理解や周知度を高め、自ら取り組めるよう展開します。</p> <p>◆こうべ食育フェア ◆食育ロゴマーク・キャッチフレーズの周知促進</p>
<p>食品関連事業者等との連携による食環境づくりを推進します</p>	<p>■連携・協働による効果的な取組 企業、団体、研究機関、大学、行政機関から構成される「健康創造都市 KOBE 推進会議」を通じ、相互のネットワークの強化を図り、効果的な取組を検討します。また、「食育・健康タウン東灘」では、区内の食品関連事業者との連携事業を行います。</p> <p>■神戸流通活性化推進事業 神戸市内の小売・仲卸業者等で「神戸流通活性化推進事業実行委員会」を組織し、中央卸売市場と専門小売店を通じた安心・安全な鮮魚、野菜、果実の流通活性化に取り組むとともに、魚食普及や食育につながる事業も行います。</p> <p>◆食品関連事業者との包括連携協定による食育の取組 ◆健康創造都市 KOBE 推進会議における食育の取組 ◆食育・健康タウン東灘 ◆やさいの日 & おやつの日、ととの日</p>
<p>デジタル（オンライン）を活用した食育情報を発信します</p>	<p>SNS や動画配信など、デジタルツールを活用した非接触型の食育を推進し、利用する市民の特性（若い世代、子育て世帯や特にひとり親家庭等）に応じた効果的な情報発信を行います。また、食事などの健康情報をデータベース化し、健康アドバイスを受けられる健康アプリ「MY CONDITION KOBE」を活用した食育にも取り組みます。</p> <p>◆離乳食動画、歯みがき動画、オーラルフレイル動画、レシピ動画配信 ◆若い世代へ SNS 活用した取組（3オンザライス等） ◆健康管理アプリ「MY CONDITION KOBE」を活用した取組</p>

計画の進捗管理

- 年に1回、有識者や関係機関・団体等からなるこうべ食育推進調整会議を開催して、取組の進捗について報告し、意見聴取を行います。
- 本計画は、取組の成果や取り巻く社会環境の変化、市民のニーズ、モニタリング指標等を踏まえながら必要に応じて見直しを行います。

神戸市食育推進計画（第4次） 資料編

市民の食育に関するアンケート調査（令和元、2年度）結果【抜粋】

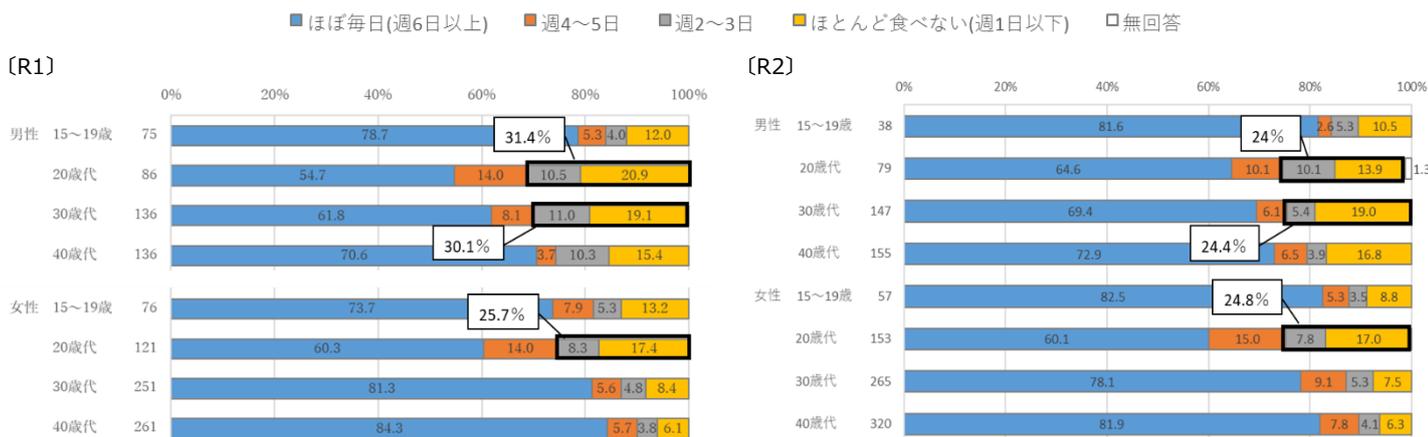
- 調査対象 (R1) 市内在住の15歳以上80歳未満の方から7,000人を無作為抽出
(R2) 市内在住の15歳以上50歳未満の方から5,000人を無作為抽出 ※
- 調査期間 (R1) 令和2年1月6日から令和2年1月21日
(R2) 令和3年1月4日から令和3年1月19日
- 調査方法 (R1) 15歳以上50歳未満：郵送による配布・インターネット調査
50歳以上80歳未満：郵送による配布・回収またはインターネット調査
(R2) 郵送による配布・インターネット調査
- 回収率 (R1) 25.8% (1,807件回収) (R2) 24.7% (1,234件回収)

※コロナ禍による若い世代の市民の食育・食に関する状況の変化を把握するために実施。

食生活の状況や食育に関して

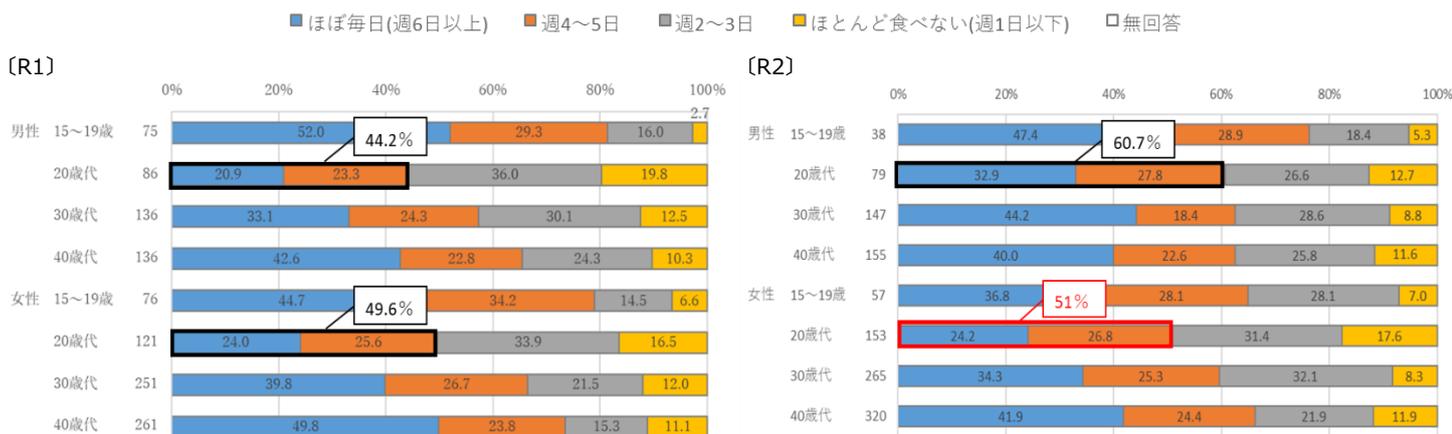
(1) 朝食の摂取状況

- R1、R2とも、男性の20歳代、30歳代、女性の20歳代で“朝食を欠食している（週2～3日以下）”割合が高くなっている。
- R1と比較すると、男性の20歳代、30歳代、女性の20歳代とも“朝食を欠食している”割合が低くなっており、特に男性で低くなっている。



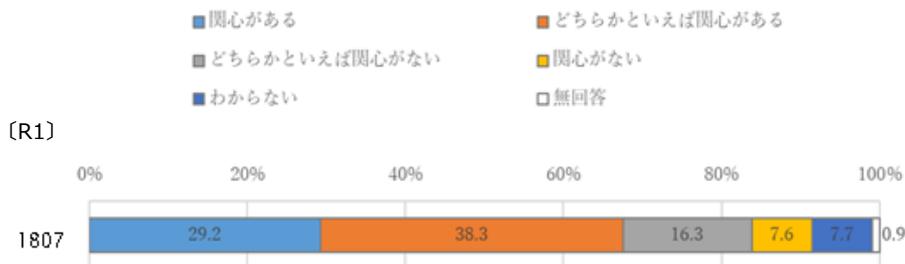
(2) 主食・主菜・副菜のそろった食事頻度

- R1、R2とも、男女とも20歳代で“主食・主菜・副菜がそろっている（4～5日以上）”割合が低くなっている。
- R1と比較すると、男性の20歳代では“主食・主菜・副菜がそろっている”割合が高くなっているが、女性の20歳代では変化なし。



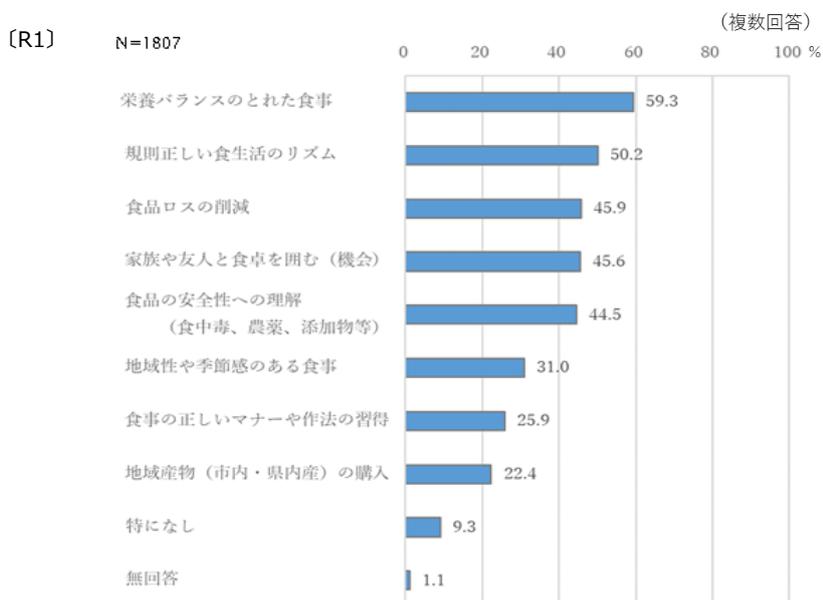
(3) 食育への関心度

・食育に関心を持っている人（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」）の割合は、約7割となっている。



(4) 日頃、食育の取組として実施していること

・「栄養バランスのとれた食事」、「規則正しい食生活のリズム」、「食品ロスの削減」の順で、“日頃、食育の取組として実施している”割合が高くなっている。



(5) 非常時の食の備え

・「飲料」、「食料」、「熱源」の順で、“非常用の食料・食器・熱源などを用意している”割合が高くなっている。

